

「和歌山県災害廃棄物処理計画」を策定しました！

1. 計画策定の目的

平成23年紀伊半島大水害における災害廃棄物処理の経験・教訓を活かし、近い将来発生が懸念される東海・東南海・南海3連動地震等の大規模災害時に大量発生（※1）する「がれき」などの災害廃棄物を迅速適正に処理し、災害からの速やかな復旧・復興を果たすため、災害廃棄物処理に関する基本的な考え方や処理方法などを取りまとめた和歌山県災害廃棄物処理計画を策定しました。

＜紀伊半島大水害の経験・教訓＞

- 大規模災害時、被災市町村による災害廃棄物処理は困難
- 廃棄物処理に精通した産業廃棄物処理業界の協力が不可欠
- 災害廃棄物の分別を徹底することが第一
- 発災前の備えが重要 迅速処理を左右

＜紀伊半島大水害における災害廃棄物仮置場＞



2. 計画の特色

- 大規模災害時の災害廃棄物処理は、県が主導的な役割を担う
 - ・市町村からの要請を待たずに発災後速やかに「和歌山県災害廃棄物処理支援要員（がれき隊）＜注＞」を被災地へ派遣
- 発生現場での分別を徹底し、災害廃棄物の再資源化と処理の迅速化を図る（※2）
 - ・仮置場ごとに持込可能な廃棄物の種類は、2～3種類に限定
- 既存廃棄物処理施設で処理ができない廃棄物は、仮施設を設置して処理（※3）

＜注＞和歌山県災害廃棄物処理支援要員（がれき隊）

平成26年度に制度化し本年7月現在18名。廃棄物行政経験者など廃棄物処理に精通した職員で構成。（一社）県産廃協会会員とチームを編成し、災害廃棄物の迅速・適正な処理にあたる。

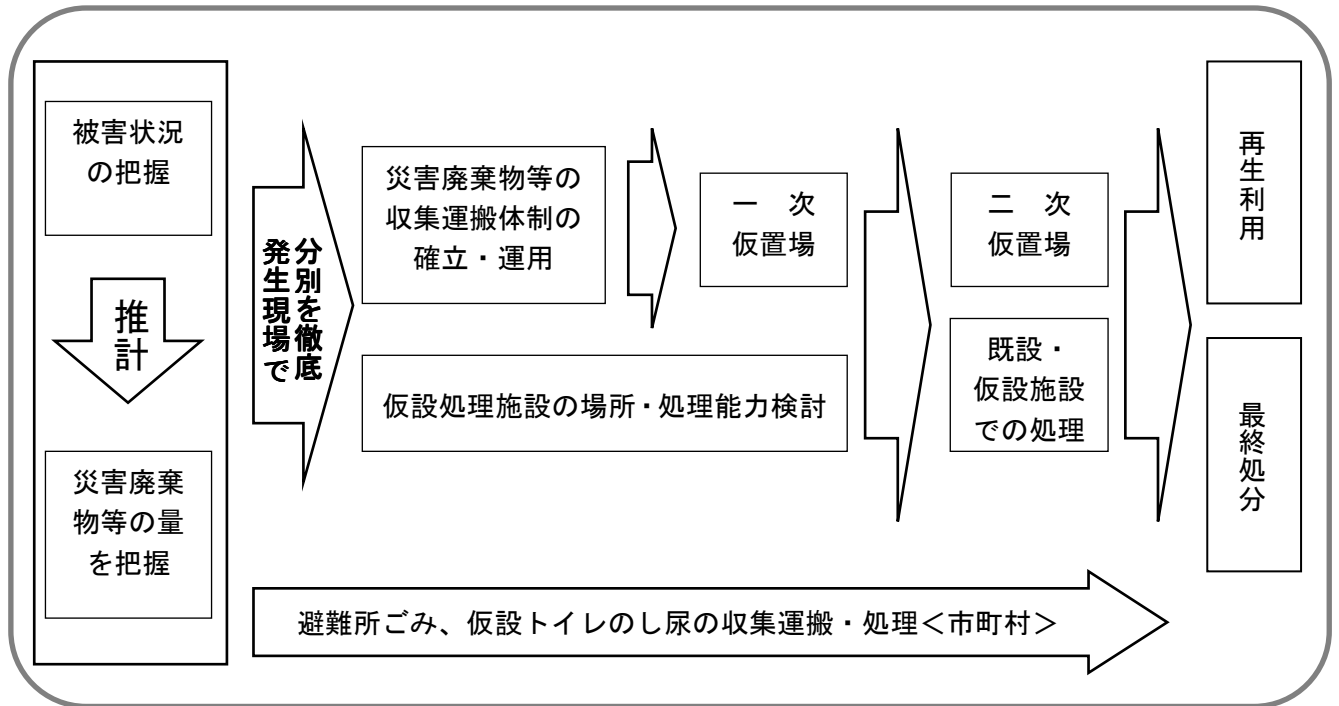
＜紀伊半島大水害における（一社）和歌山県産業廃棄物協会の協力＞



(※1) 想定される災害廃棄物発生量

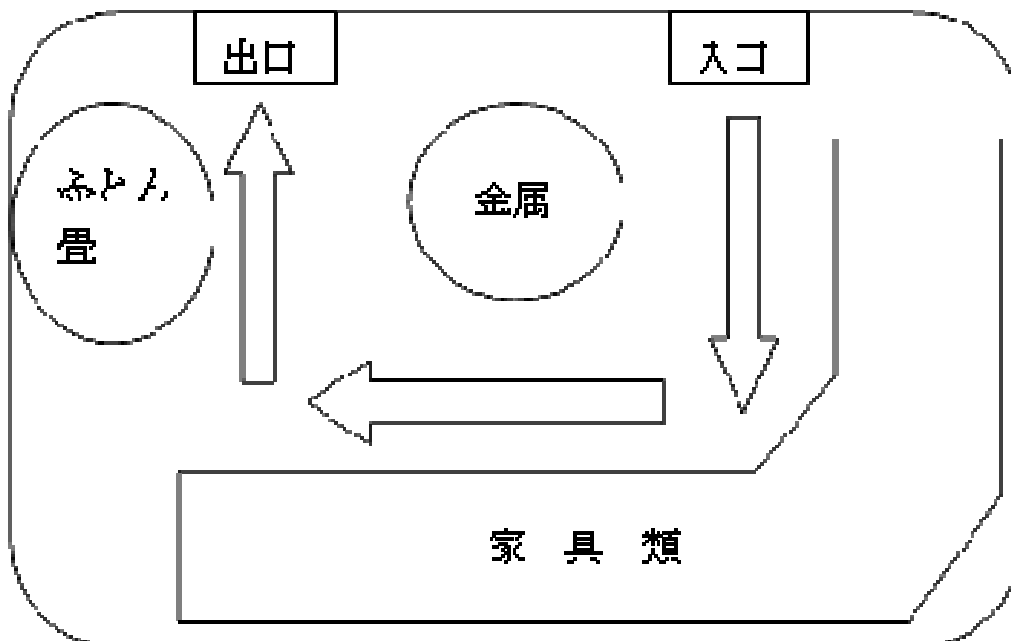
3連動地震 災害廃棄物 500万トン 津波堆積物 330万トン <計> 830万トン	南海トラフ巨大地震 災害廃棄物 1,530万トン 津波堆積物 720万トン <計> 2,250万トン	(参考) 紀伊半島大水害 災害廃棄物 約7万トン
---	---	--------------------------------

(※2) 災害廃棄物処理の流れ



○仮置場の配置 (例)

災害廃棄物の再資源化と処理の迅速化のため、仮置場1か所あたりの廃棄物は2～3種類に限定



(※3) 焼却が必要な災害廃棄物量等

(t)

	焼却が必要な廃棄物量	既存施設での処理可能量	不足量（仮施設で処理）
3連動地震	795,040	81,085	713,955
南海トラフ巨大地震	2,449,600	77,005	2,372,595

(※3) 仮設焼却施設の想定規模（3年間（実稼働600日）施設を稼働させる想定で算出）

合計

1,190 t/日	3連動地震
3,950 t/日	南海トラフ巨大地震

※参考

和歌山市の既設焼却施設の処理能力
720 t/日（4炉）

和歌山・海草

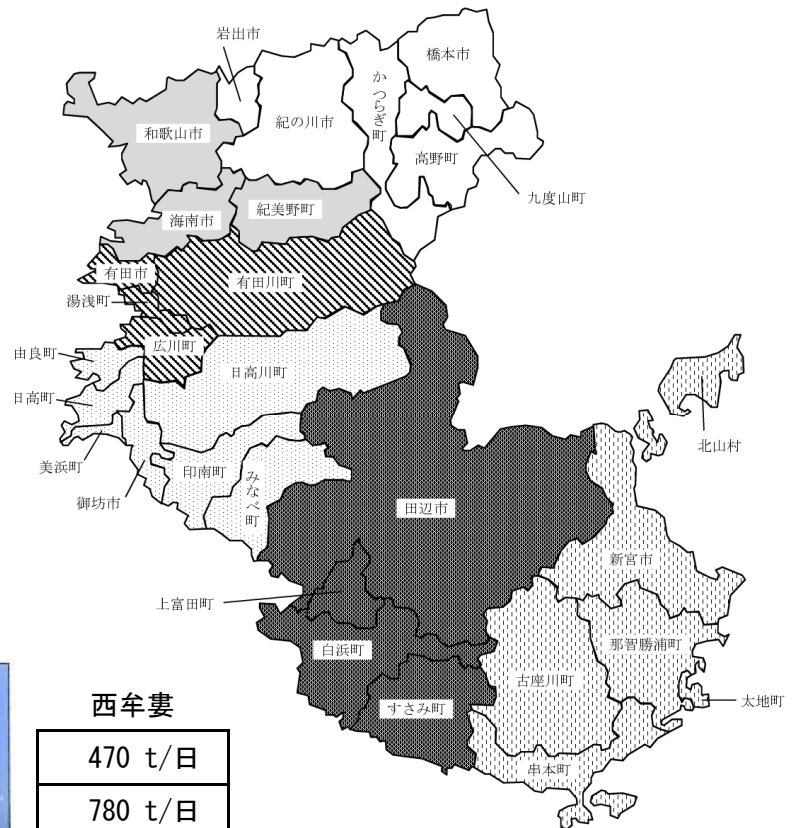
260 t/日
1,850 t/日

有田

—
310 t/日

日高

240 t/日
540 t/日



西牟婁

470 t/日
780 t/日

東牟婁

220 t/日
470 t/日



※仮設焼却施設
（東日本大震災：宮城県）

【お問い合わせ先】 環境生活部 循環型社会推進課 山田、田中 TEL. 073-441-2675